

「ワイナピチュをを目指して」

田中あおい氏 (岡山県)

ずっと行きたかったマチュピチュ遺跡に、GWに友人と二人で行く事ができた。せっかくマチュピチュまで行くのなら、背後にそびえるワイナピチュに登って遺跡の全貌を見たい!と思うが、私達二人とも登山経験などももちろん無い。しかも友人に至っては、旅行そのものに若干の不安を覚えるほど、かなりぼっちゃりした体型である。そんな私の心配をよそに、友人は早速ウォーキングを始めると言って、登る気満々な意気込みを見せてくれる。それならばと、お互い無理はしない事を約束して、ワイナピチュ入山チケットを買ってペルーへと出発した。

当日はまだ暗い朝4時に起きて、バスでマチュピチュへと向かう。登山口からは階段や登り坂が続く上に足元は悪く、高山病の心配もある。しかし日本でウォーキングを毎日続けていた私達はなかなか頑張った。だがしかし、その頑張りも長くは続かない。半分も行かないうちに友人が「ちょっと休もう」と言いはじめ、振り返るとビッショリと汗をかいて息も上がっている。はじめに決めた通り、無理をせずに少し歩いては休み、少し歩いては休みを繰り返し、自分達なりのペースで少しずつ上へ上へと進んで行く。そうするうちに、同じようなペースの人達と一団になり、チームといった雰囲気ができあがってくる。隣で頑張っている人を見ると、自分も意外なほどの底力を発揮できるのには驚きだ。そして、ついに私達は頂上に立った。

眼下には、マチュピチュ遺跡がミニチュアのように置かれている。アンデスの山から吹いてくる風は、お疲れ様と言ってくれているかのように心地良い。たいした運動もしていないこの歳で、まさか本当に頂上まで登れるとは思わなかった。いや登るつもりでいたが、それは半分夢のような話だったのだ。自分自身も頑張ったと褒めたいが、友人の努力には心からの拍手を送りたい。約10ヶ月前にワイナピチュへ登ると決めてから始めたウォーキングは、私達に体力と筋肉を付け、登頂するまでの苦しさはその後友人にダイエットを決意させた。

旅は行っている間だけ楽しいようだが、実はその前後もしっかり旅なのかもしれない。行く前の体力作りから始まり、途中では体力と筋肉のなさに凹み、帰ってからはダイエットや体力の向上に努めようと決意する。そして途中でチームとなった人達とは、ネットを通じて今も交流が続いている。出身も年齢も性別もバラバラなのに、たまたま同じ時に同じ道を歩いたというだけで、ずっと前から友人のような気がするから不思議だ。

旅を終えて日常生活に戻ると、この時の決意や気持ちをあっさりと忘れてしまいそうになる。そんな時にはマチュピチュの絶景を思い出して気持ちを奮い立たせ、次はどこへ行こうかと楽しみにしながらまたウォーキングを頑張る。そんな毎日を送っている。